

幼児期における保護者の養育態度と遊び込み経験が目標を達成する力に与える影響

—遊びの種類に着目して—

石原みなみ



目標を達成する力とは？

● 目標を達成する力 = 非認知能力の一つ

非認知能力

→ 近年、非認知能力を育むことは子どものその後の成功を予測しうるものとして着目されている

→ **目標を達成する力(忍耐力・目標への情熱・自己抑制)**は子どもの将来にとって特に重要(森口,2019)

これまでの知見

- ・ 保育者の受容的な関わりが子どもの**遊び込み経験**を多くする
- ・ **遊び込み経験**が多いと、非認知能力が高くなる
(ベネッセ教育総合研究所,2016)

目的

- ① 保護者の養育態度が**遊び込み経験**に与える影響を検討
- ② 保護者の養育態度と**遊び込み経験**が**目標を達成する力(忍耐力・目標への情熱・自己抑制)**に与える影響を検討

方法

■ 対象者：仙台市内の女子高等学校の生徒103名 (M=16.14, SD=0.73) 質問紙調査

■ 質問紙の構成

(1) 非認知能力

忍耐力・**目標への情熱**を測定：日本語グリット・スケール (Duckworth,2016 神崎詠,2020)

自己抑制を測定：自己抑制コントロール尺度 (高橋ら,2016)

(2) 保護者の養育態度

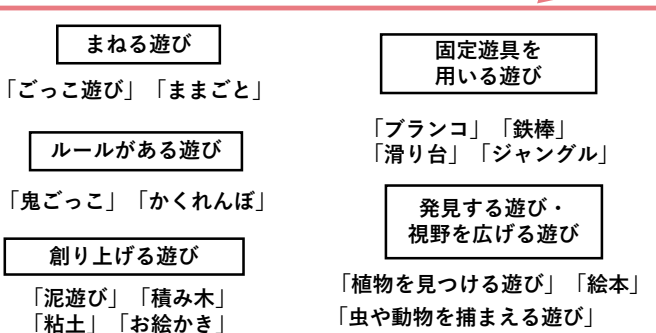
両親に対する養育スタイル認知尺度 (山口,2016)

(3) 遊び込んでいた遊びを問う項目

大豆生田ら(2019)と細井ら(2007)の調査から15個の遊びを5つのカテゴリに分類し、各カテゴリの遊び込み経験を尋ねる

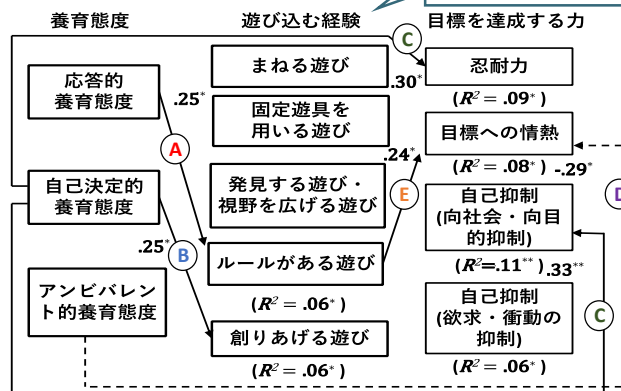
(4) 記憶の鮮明さを問う項目

(2)(3)で幼児期を思い出して回答できたかを確認
→ 「よく思い出せなかった」と回答した対象者を除外



結果

・ ** $p < .01$, * $p < .05$
・ 実線: 正の関連
・ 破線: 負の関連



考察

目的①(結果 A B)について

子どもはありのままの自分を温かく受け止めてくれる大人の存在により、気持ちをコントロールし、自発的に物事に取り組むようになる(大豆生田・大豆生田,2019)

応答的養育態度・自己決定的養育態度

自分の気持ちに応じてくれる親の存在は、子どもの心の安定を促し、自発的な行動ができるようになる
⇒ **ルールを守って積極的に遊びに参加したり、様々な物を作りたいという意欲につながるのでは？**

目的②(結果 C D E)について

自己決定的養育態度

主体性が芽生え、目標達成のために諦めずに頑張ることや他者や集団のために自己を抑制することができるようになるのでは？

アンビバレント的養育態度

時に温かくなったり、冷たくなるといった相反する養育態度により、気持ちが不安定になることで子どもの意欲を低下させ、目標への情熱が育まれないのでは？

ルールがある遊び

それぞれ役割があり、ルールに従わなければ遊びが成立しないため、自身の役割を果たして遊ぶことは目標への情熱を高めるのでは？

鬼ごっこなら捕まえる/逃げる

まとめ

ベネッセ教育総合研究所の保育の場での調査(これまでの知見)から、**遊び込み経験**が非認知能力の高さに与える影響が明らかとなっていたが、本研究の結果から**保護者の養育態度**も非認知能力の高さに影響を与えていると考えられた

